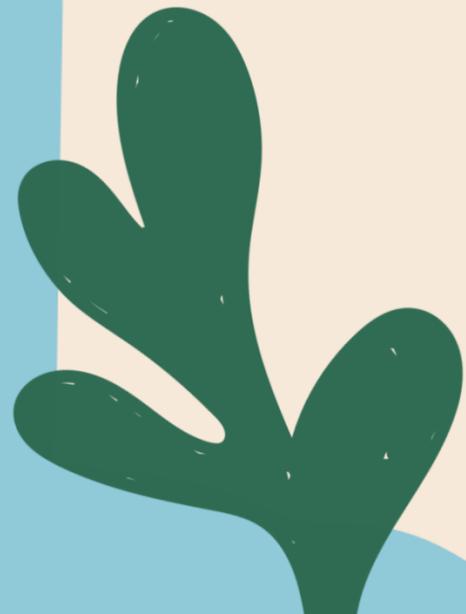
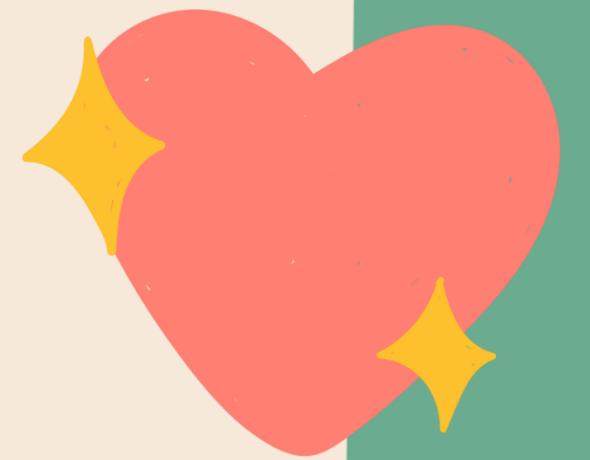


「遊び場づくり」  
～ごちゃまぜの関係で  
育まれるもの～

特定非営利活動法人たねの会  
代表理事(プレイワーカー) 佐藤 美和



# 佐藤 美和

MIWA SATO

特定非営利活動法人たねの会 代表理事

宮城県仙台市出身。23歳息子・19歳娘の母。中学～高校時代、身内の不登校から「学校外の学びの場・居場所づくりについて考えはじめ、大学で「子ども支援塾ネット」に出会う。学習塾で正社員をつとめた後、結婚・出産。「プレーパーク」に出会い、「子どもたちがのびのび遊べるまちをつくろう！」をモットーとした「たねの会」を発足。代表をつとめる。





## 遊びを伝える

### 啓発普及事業

学習会やワークショップを開催し、遊びの大切さや大人の役割について学び合うきっかけづくりをしています

## 人をつなぐ

### ネットワークづくり事業

「遊び」を大切にするまちづくりのために、行政や他団体と協力関係をつくっていきます

# たねの会の主な事業

## 場をひらく

### 主催運営事業

常設の遊び場「冒険はらっぱプレイパーク」（さいたま市浦和区）を運営しています



## 一緒につくる

### 遊び場づくり支援事業

遊び場づくりをやってみたい！  
という方たちのお手伝いをします

## 共に育つ

### 人材育成事業

子どもや遊び場づくりに関わる人材育成のための研修を行っています





# さいたま市子ども家庭総合センター（あいぱれっと） （京浜東北線与野駅徒歩7分）



冒険はらっぱ



# さいたま市子ども家庭総合センター（あいぱれっと）

ワンストップでの相談対応・地域の子育て機能を支援する施設  
乳児～中高生の居場所 + 相談機能（若者・親）

- 1F ●市民コンタクトスクエア
- 2F ●児童相談所（北部・南部）
- 3F ●子どもケアホーム ●あいぱれっと教育相談室 ●相談室エリア
- 4F ●総合相談機関総合事務室  
児童相談所（北部・南部）・こころの健康センター・総合教育相談室・  
子ども家庭支援課・男女共同参画相談室  
●相談室エリア
- 屋外 ●冒険はらっぱプレイパーク



平日平均 92.5人  
休日平均 141.7人

プレイワーカー 平日3名 / 休日4名体制



# 「冒険遊び場」とは

冒険遊び場は、すべての子どもが自由に遊ぶことを保障する場所であり、**子どもは遊ぶことで自ら育つ**という認識のもと、子どもと地域と共ににつくりあげていく、屋外の遊び場である。

2021年3月 特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会

## 「冒険遊び場づくり」

地域住民が主体となって運営され、公園では禁止されてしまうような?穴掘りや木登り、水遊び、火をつかった調理なども、地域や行政との協力・連携により、できる限り可能にしている。

全国で400ヶ所以上（頻度・実施場所・運営メンバーは様々）

※「冒険遊び場」は「プレイパーク」「プレーパーク」と同義です



# 冒険遊び場はいろいろ「ごちゃまぜ」

年齢制限なく、いつでも、だれでも来られる  
遊び方・過ごし方が自由

# 「年齢」がごちゃまぜ



# 「学校」もごちゃまぜ



# 「親子」もごちゃまぜ



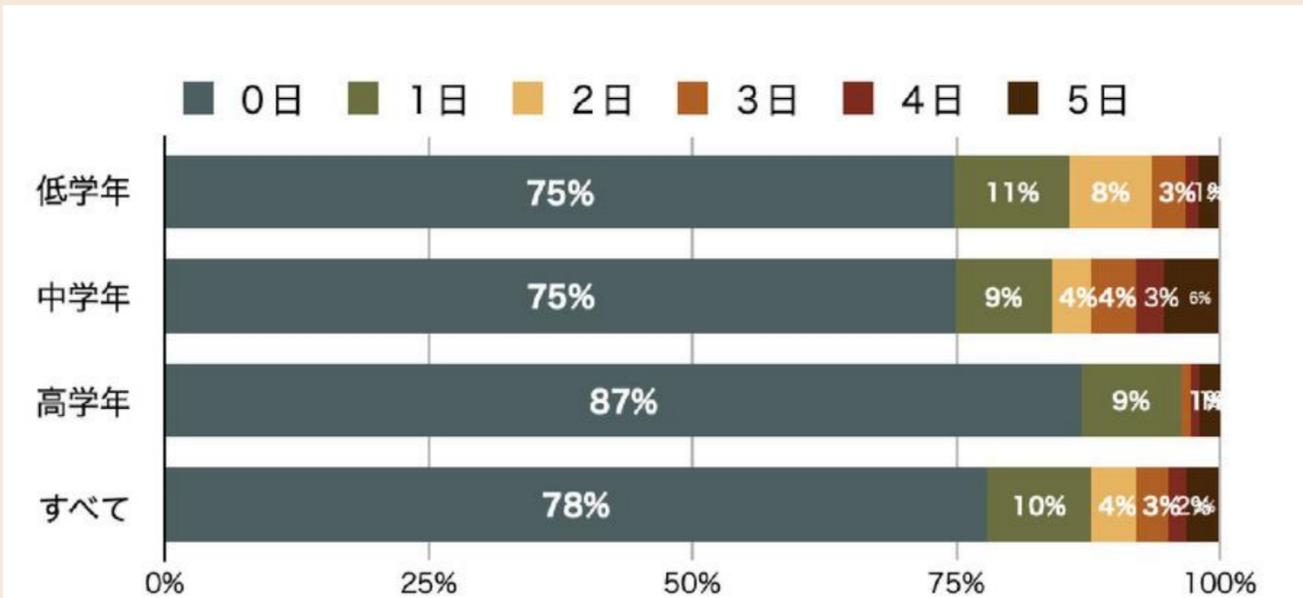
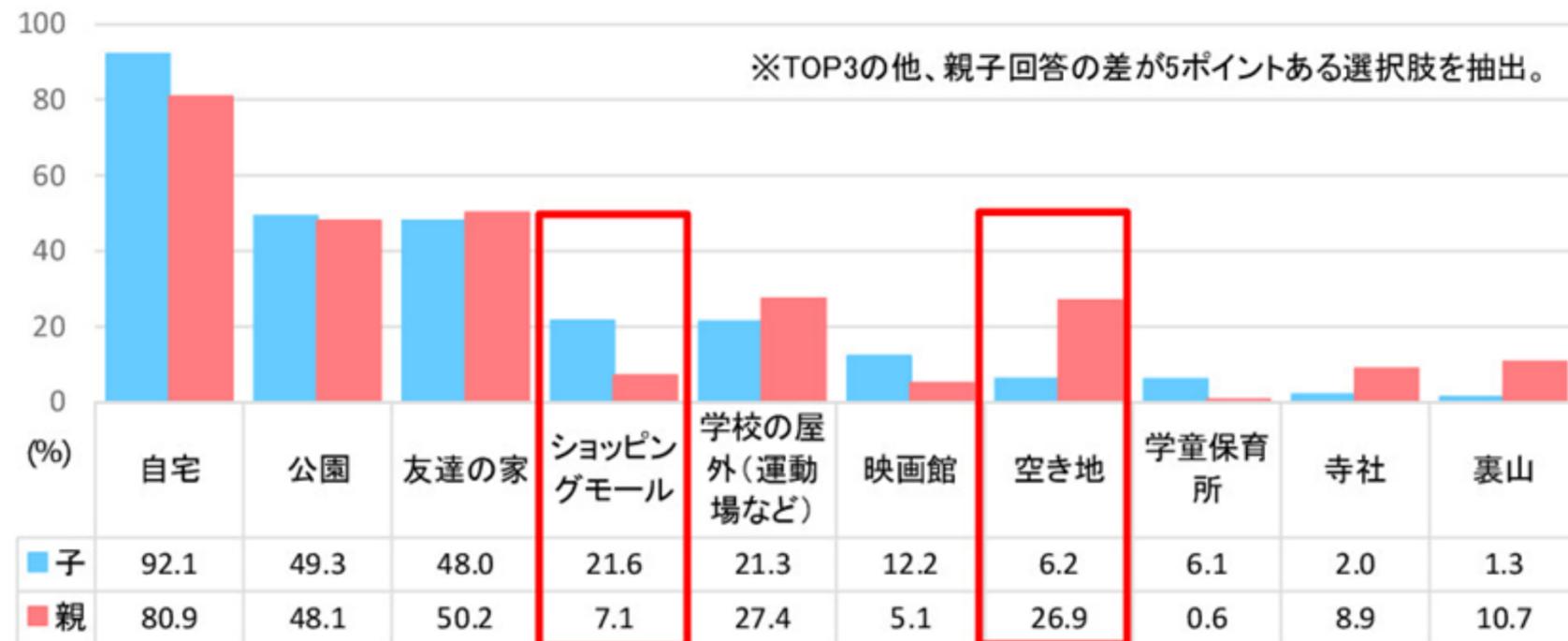
「立場」「所属」もごちゃまぜ



# 子どもたちをとりまく環境

のびのび遊ぶこと(外遊び)がしづらい環境

- ①三間の不足(時間・空間・仲間)
- ②制限・制約の多い環境(責任追及)
- ③治安への不安・社会情勢
- ④大人の価値観や関係性の問題



都市部の平日の子どもの外遊びの日数

外遊び0日 = 都市8割、農村部6割

資料提供: 木下勇氏・寺田光成氏

# 「少子化」 = 「多大化」

子ども（18歳未満）1人あたりに対する大人の数

1920年 1.33人

1970年 2.46人

2010年 5.26人

2060年 8.76人 と予測されている（平成27年国勢調査）

都市化・少子高齢化などによる「多大化」

⇒群れて遊ぶ環境が失われているとともに、  
大人の都合が優先されやすい社会環境



# 「禁止看板」はなぜできる？

苦情

行政管理者

禁止看板

市民

市民

市民同士が話し合える関係であることが必要



# 孤立した子育て

## 「1人もいない」と答えた数

- ◆ 「子どものことを気にかけて声をかけてくれる人」 19.9%
- ◆ 「子ども同士を遊ばせながら、立ち話できる人」 24.5%
- ◆ 「子育ての悩みを相談できる人」 21.7%
- ◆ 「子どもを預けられる人」 53.4%

Q 地域の中で、子どもを通じたお付き合いの状況にもっとも近いのはどれですか。

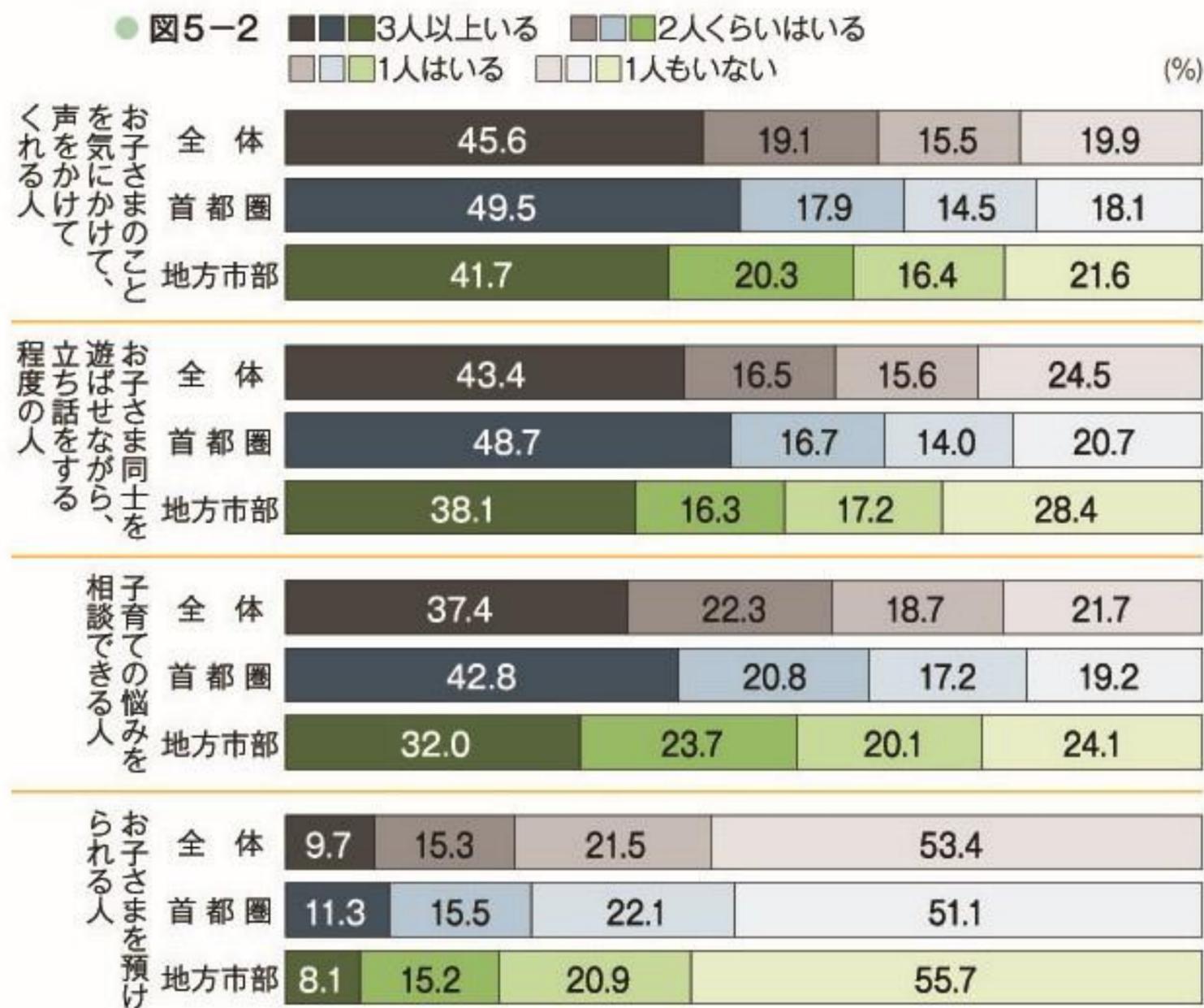


図3 子どもの幸福度（結果）の総合順位表：精神的幸福度、身体的健康、学力・社会的スキル

総合順位	国	精神的幸福度	身体的幸福度	スキル
1	オランダ	1	9	3
2	デンマーク	5	4	7
3	ノルウェー	11	8	1
4	スイス	13	3	12
5	フィンランド	12	6	9
6	スペイン	3	23	4
7	フランス	7	18	5
8	ベルギー	17	7	8
9	スロベニア	23	11	2
10	スウェーデン	22	5	14
11	クロアチア	10	25	10
12	アイルランド	26	17	6
13	ルクセンブルク	19	2	28
14	ドイツ	16	10	21
15	ハンガリー	15	21	13
16	オーストリア	21	12	17
17	ポルトガル	6	26	20
18	キプロス	2	29	24
19	イタリア	9	31	15
20	日本	37	1	27
21	韓国	34	13	11

# のびのび遊び育つ子どもたちを 見守り合える関係づくりを

「あそび」＝「余白」「ゆとり」を生み出そう

斜めの関係づくり

地域での取り組み



これから広げたいこと

「支援」のごちゃませ

地域活動ネットワーク「さいまーる」



子どもに関わる個人・団体の分野を超えた  
ネットワークづくり  
(活動団体・大学・議員・企業・社会福祉  
協議会・民生委員・地域包括など)

ここに、多職種（保育園や学童、学校関係  
者、行政職員等）も参加してもらって、対  
話から課題を解決していきたい

「ごちゃませの会」との連携



これから広げたいこと

「価値観」のごちゃまぜ

（第3種郵便物認可）

# 子どもたちの挑戦を応援



フリースクール「くるーず」を立ち上げる（左から）佐藤信一さん、佐藤美和さん、支援する秋本創さん。さいたま市岩槻区本町4丁目

## 岩槻区にフリースクール

子どもたちの挑戦を応援し、新しい学びの場を提供しようとして、さいたま市岩槻区で、地元市民らがフリースクール「くるーず」の開設に向け準備を進めている。「誰もが人生の船長」として、「周遊くるーず」と命名。9月にオープン予定で、拠点となる市民家の改修などに、クラウドファンディング（CF）による協力を呼びかけている。（杉野孝）

NPO法人「たねの会」代表 三浦 なども行つ。表理事の佐藤美和さん（49）＝ 佐藤美和さんは子どもの遊同市岩槻区＝と、佐藤信一さん（44）＝同市南区＝が、運営を立ち上げる。「子どもたちは遊びながら、必要な将来への不安に悩む親もいとを学んでいる」として、不登校とされる子どもたちが遊べる「プレパーク」に通う中で、同じ「学び、育つ」ことができる「年代の子たちと出会う、ステ環境を整える。保護者の会やフリースクール」で歌うようになった。「学大人のフリースクール、地域に行けないのは、その子が人が講師を務めるワークショップ 悪いわけではない。居場所を

## 9月開設、CFで協力呼びかけ

つくり、いろいろな人と出会う、伸び伸びと地域で遊んで育つ環境をつくりたい」都内のフリースクールのスタッフを長く務めていた佐藤信一さんは、子どもたちが好きなことにチャレンジしたり、出会った仲間と対話しながら活動していく様子を見てきた。「子どもたち自身がやりたいことを決め、実践していき」と自らが学び、楽しいを一緒に経験できる仲間が増えたらいいなと思」と話した。

開設場所は同市岩槻区本町4丁目の「水野書店」敷地内にある2階建て古民家。開室時間は月水金曜日の午前9時午後3時。対象は6～15歳の子どもと保護者。入会費5万円、月会費3万3千円。施設維持費月1万000円、見学・体験3回で5500円。9月2日午後3～4時半に説明会を開催。以降、毎月第1土曜日の午前10～11時半に、説明会の開催を予定している。

CFはキャンブファイアーの社会課題向けグッドモーニング。目標金額は200万円。9月末まで募集している。問い合わせは、佐藤美和さん（090-7179-5436）、くるーずのメール（freeschoolcruise@gmail.com）へ。

開室予定 同市



フリースクールくるーず  
オープン記念イベント  
2023年9月2日(土)

**くるーず 縁日**

申込み・参加費なし

☆子どもも大人もどなたでもどうぞ☆

**場所** フリースクールくるーず  
さいたま市岩槻区本町4丁目2-10  
(水野書店&Cafe mao-mao裏)

**時間** 10:00~12:00

**内容** 的あて・輪投げ・昔遊び  
フリーマーケットなど

お手伝いしてくださる方も募集中です

お問い合わせ 特定非営利活動法人たねの会  
✉ freeschool.cruise@gmail.com  
☎ 090-7179-5436(佐藤)



「ごちゃまぜ」の関係で育まれるもの

「大人」の側の「壁」「枠」が取り払われること  
で、子どもはもっと「自由に」なれる

「大人が遊ぼう・つながろう」

誰もがありのままで生きやすい地域共生社会へ